

平成 25 年度上下流交流事業

いちのみや親子木曾川源流探検隊

- 【日 時】 平成 25 年 8 月 3 日（土）
【場 所】 木祖村 こだまの森周辺及び味噌川ダム
【内 容】 以下のとおり

愛知県一宮市との上下流交流事業の一環として、一般公募の一宮市親子 80 名及び一宮市関係者 4 名が、「木曾川源流の里」木祖村を訪れました。毎年非常に人気のある事業で、抽選に外れたために参加出来なかった方もいらっしゃるということです。

まず、こだまの森で歓迎セレモニーが開催され、下流域の参加者を代表して「いちのみやリバーサイドフェスティバル」運営協議会の岩田副会長より木曾地域と一宮市との上下流交流の取り組みが紹介されました。上流域からは開催地である木祖村長の栗屋徳也氏をはじめ木祖村・木曾広域連合等関係者 8 名が出迎え、栗屋村長、古畑議長、古幡副管理者が歓迎のあいさつを行いました。

セレモニー終了後、参加者は、キャンプ場の釣り堀へ移動してイワナのつかみ取りを体験。子供たちははじめのうちは水の冷たさに驚いた様子でしたが、徐々にコツをつかんだようで、1 人で 10 匹以上も捕まえたという子もいました。

昼食はバーベキューと、捕まえたばかりの岩魚の塩焼きが用意されました。

その後自由行動ではブルーベリー狩りの体験があり、皆さんたくさんある木々の中からより色濃く実っているものを探し、お土産のパックいっぱいブルーベリーを摘んでいました。

こだまの森を出た後は 2 班に分かれ、木曾川源流ふれあい館（味噌川ダム資料館）の見学とダム巡視船の乗船体験がありました。ふれあい館では水の役割や大切さ、ダムの建設工事の様子などをスライドやビデオで学習しました。巡視船の乗船体験は、このツアーの中でも毎年特に人気があるようで、普段は見る事が出来ないダムの中からの景色を楽しみました。

最後に道の駅「木曾川源流の里きそむら」でお土産等買い物を楽しまれ、帰路に就かれました。限られた時間でしたが、木曾の自然を感じていただく良い機会であり、皆さん満足された様子でした。

☆ 当日の様子



歓迎セレモニー



イワナのつかみどり



昼食風景



ブルーベリー狩り



木曾川源流ふれあい館



巡視船体験乗船

※この事業は、長野県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して実施しました。